

II がん罹患数及び罹患率

1. 罹患率の岡山県と全国との比較

表2では年齢調整罹患率を岡山県(2009年)と全国(2007年推計値)で対比した。

岡山県の全国に対する比を日本人モデル人口で見ると、全部位では男は1.07と全国値を上回り、女も1.17と全国値を上回った。世界人口での検討においても同様の結果であった。

また岡山県と全国で対比すると、男では甲状腺(1.78)、脳・神経系(1.63)、膀胱(1.55)など、女では喉頭(2.43)、脳・神経系(2.15)、皮膚(1.67)などが全国値に比べ高かった。

	年齢調整罹患率(日本人人口) ^(*1)				年齢調整罹患率(世界人口) ^(*2)			
	男		女		岡山/全国 ^(*3)		岡山/全国 ^(*3)	
	岡山	全国 ^(*3)	岡山	全国 ^(*3)	男	女	男	女
全部位	432.9	405.3	307.8	263.8	1.07	1.17	1.07	1.17
口腔・咽頭	11.5	10.9	3.3	3.3	1.05	1.00	1.05	1.00
食道	13.8	17.1	2.2	2.3	0.81	0.94	0.81	0.91
胃	76.8	78.9	31.2	28.6	0.97	1.09	0.97	1.10
結腸	40.6	37.9	27.5	24.5	1.07	1.12	1.09	1.13
直腸	30.0	25.5	12.0	11.4	1.18	1.05	1.18	1.05
肝臓	30.1	29.8	10.7	10.6	1.01	1.01	1.00	0.98
胆嚢・胆管	8.4	9.1	5.4	6.6	0.92	0.82	0.93	0.82
膵臓	15.8	15.1	8.9	9.3	1.05	0.95	1.06	0.96
喉頭	4.8	4.0	0.5	0.2	1.20	2.43	1.20	1.84
肺	61.9	61.6	24.5	21.1	1.01	1.16	1.02	1.17
皮膚 ^(*4)	7.9	5.3	6.8	4.1	1.48	1.67	1.49	1.64
乳房	0.4	-	80.8	67.1	-	1.20	-	1.20
子宮	-	-	35.2	22.8	-	1.54	-	1.57
卵巣	-	-	6.6	10.0	-	0.66	-	0.69
前立腺	49.3	43.5	-	-	1.13	-	1.13	-
腎など	14.8	12.2	5.4	4.2	1.22	1.27	1.21	1.28
膀胱	19.4	12.5	4.3	2.7	1.55	1.57	1.56	1.67
脳・神経系	4.9	3.0	6.0	2.8	1.63	2.15	1.55	2.03
甲状腺	5.0	2.8	14.2	10.1	1.78	1.41	1.71	1.40
悪性リンパ腫	3.6	11.3	2.2	7.4	0.32	0.30	0.29	0.29
多発性骨髄腫	0.8	2.5	0.3	1.8	0.33	0.15	0.34	0.14
白血病	1.8	7.0	0.9	4.4	0.26	0.20	0.23	0.18

日本人人口^(*1): 1985年日本人モデル人口 世界人口^(*2): Dollの世界人口
 全国^(*3): 厚生省がん研究助成金による「地域がん登録」研究班が10府県市の成績から推計した最新値
 皮膚^(*4): 皮膚の黒色腫を含む

図2に岡山県の全部位の5歳年齢階級別・性別罹患率のグラフを全国値とともに示した(2007年推計値)。

図3に全部位の年齢調整罹患率(標準人口:1985年日本人モデル人口)の1996年~2009年の年次推移を男女別に全国値(1996年~2007年推計値)とともに示した。

図2 全部位の年齢階級別罹患率2007年(男女)

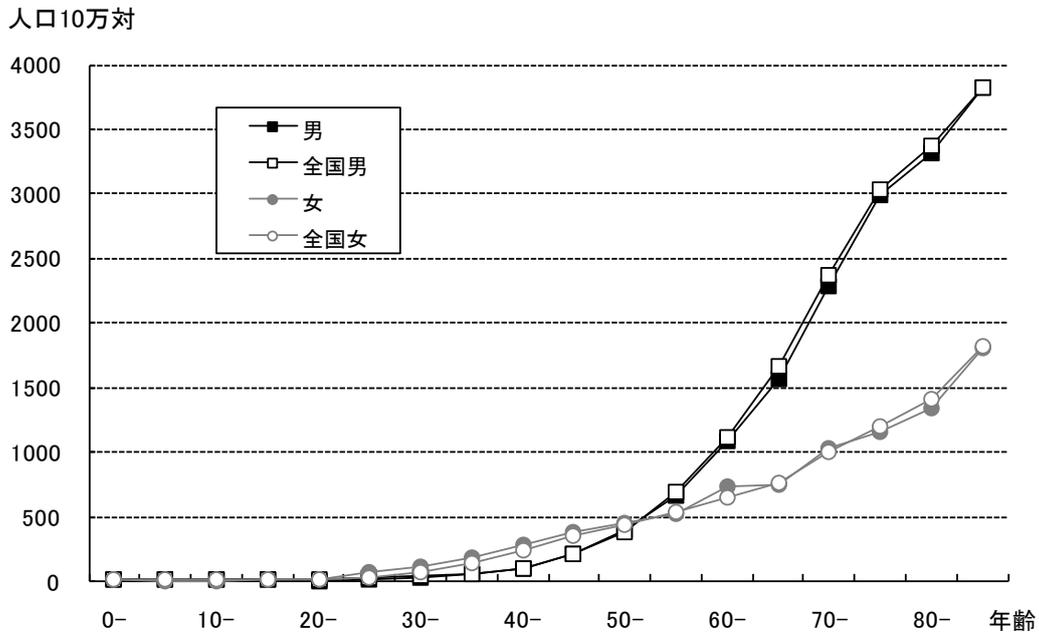
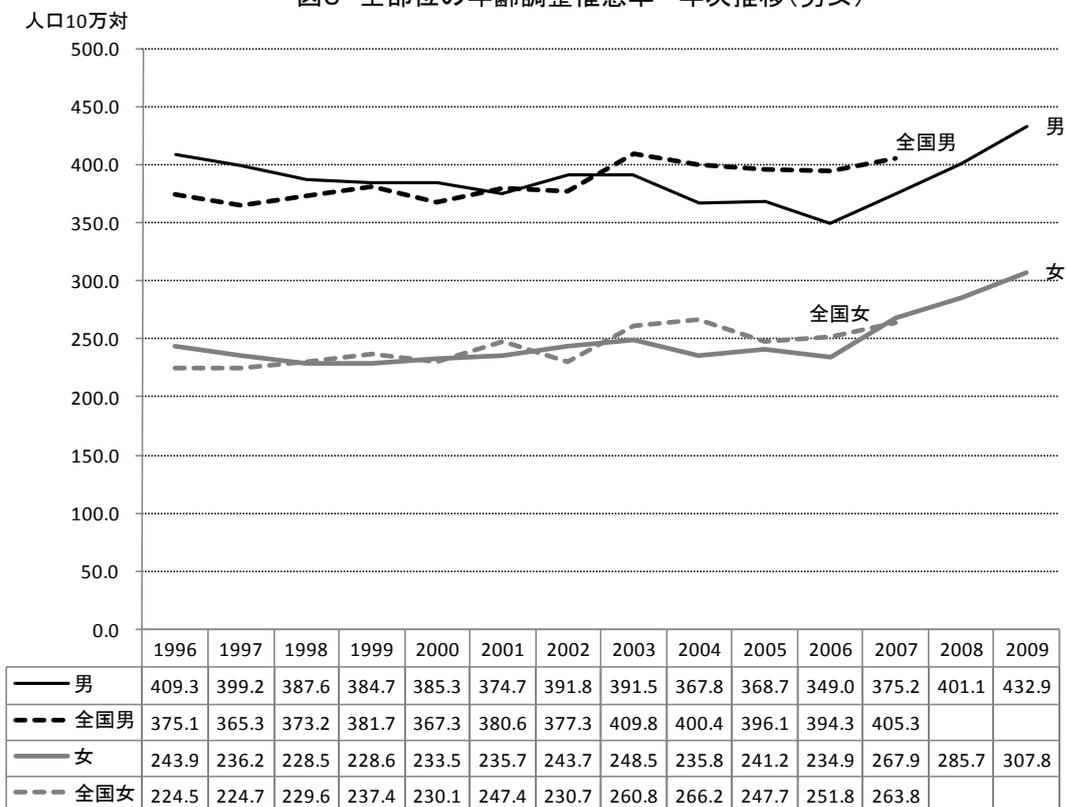


図3 全部位の年齢調整罹患率 年次推移(男女)



2. 主要部位別罹患数、粗罹患率及び年齢調整罹患率

表3に、2009年のがん罹患数、粗罹患率及び年齢調整罹患率（標準人口：1985年日本人モデル人口、世界人口）、罹患割合を、主要部位別、男女別に示した。

全がん罹患数は、男7,398、女5,550、計12,948人であった。人口10万人当たりの粗罹患率は男793.6、女548.7、日本人モデル人口による年齢調整罹患率は、男432.9、女307.8、世界人口による年齢調整罹患率は、男305.8、女230.8であった。

男については粗罹患率、年齢調整罹患率ともに胃が1位、大腸（以下、大腸とは結腸と直腸を合わせた症例とする）が2位であった。

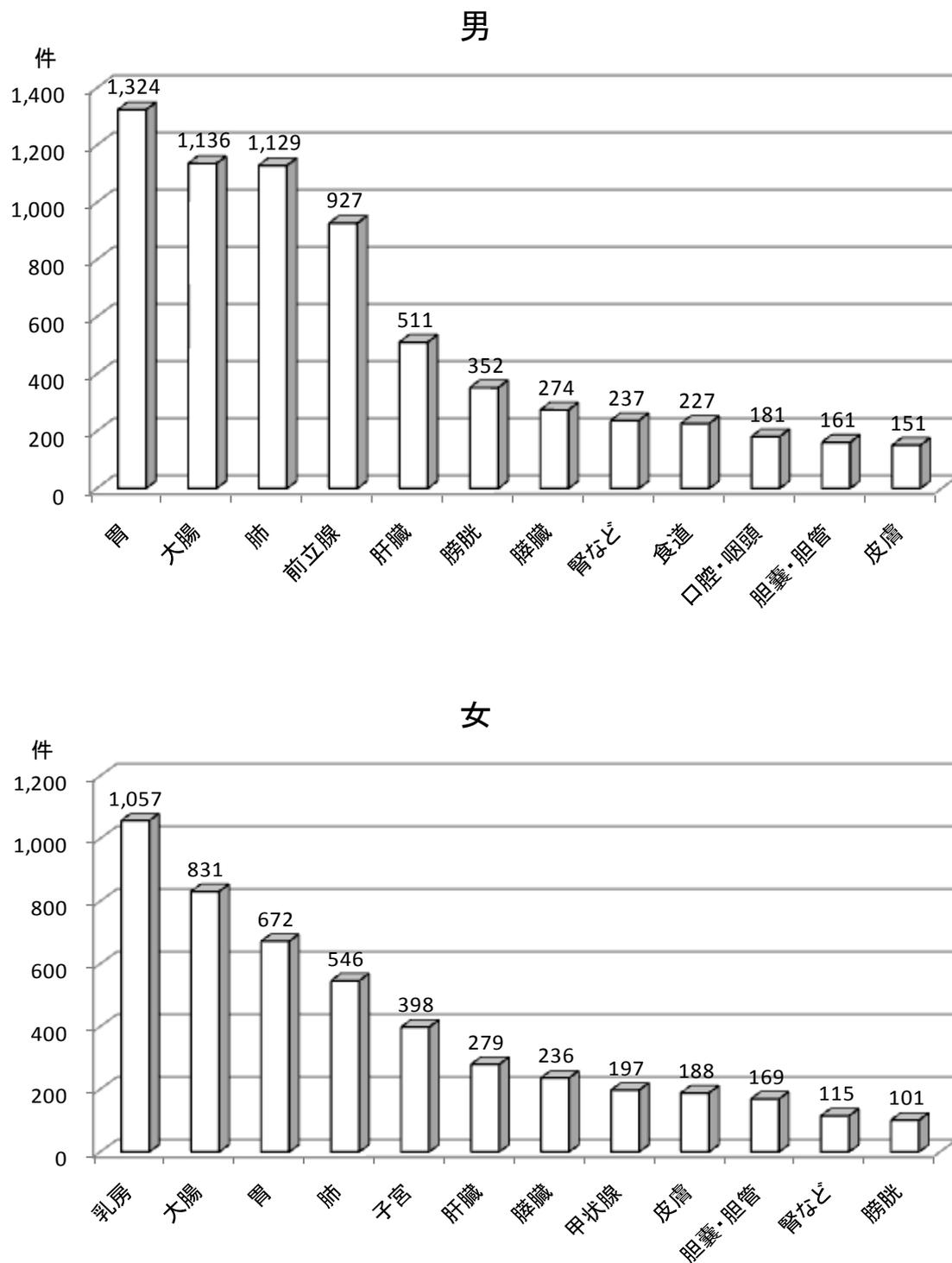
女については粗罹患率、年齢調整罹患率ともに乳房が1位、大腸が2位となっており、女性固有のがんの罹患率が高くなっている。

部位	罹患数			粗罹患率 (人口10万対)		年齢調整罹患率				罹患割合	
						日本人人口 ^(*)		世界人口 ^(*)			
	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	7,398	5,550	12,948	793.6	548.7	432.9	307.8	305.8	230.8	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	181	65	246	19.4	6.4	11.5	3.3	8.5	2.4	2.4%	1.2%
食道	227	47	274	24.3	4.6	13.8	2.2	10.0	1.6	3.1%	0.8%
胃	1,324	672	1,996	142.0	66.4	76.8	31.2	53.9	22.3	17.9%	12.1%
大腸	1,136	831	1,967	121.9	82.2	70.6	39.5	51.0	28.4	15.4%	15.0%
{ 結腸	678	596	1,274	72.7	58.9	40.6	27.5	29.1	19.6	9.2%	10.7%
{ 直腸	458	235	693	49.1	23.2	30.0	12.0	21.9	8.8	6.2%	4.2%
肝臓	511	279	790	54.8	27.6	30.1	10.7	21.0	7.2	6.9%	5.0%
胆嚢・胆管	161	169	330	17.3	16.7	8.4	5.4	5.7	3.6	2.2%	3.0%
膵臓	274	236	510	29.4	23.3	15.8	8.9	11.1	6.1	3.7%	4.3%
喉頭	77	11	88	8.3	1.1	4.8	0.5	3.5	0.4	1.0%	0.2%
肺	1,129	546	1,675	121.1	54.0	61.9	24.5	42.5	17.5	15.3%	9.8%
皮膚 ^(*)	151	188	339	16.2	18.6	7.9	6.8	5.5	4.7	2.0%	3.4%
乳房	6	1,057	1,063	0.6	104.5	0.4	80.8	0.3	62.6	0.1%	19.0%
子宮	-	398	-	-	39.4	-	35.2	-	28.0	-	7.2%
卵巣	-	97	-	-	9.6	-	6.6	-	5.5	-	1.7%
前立腺	927	-	-	99.4	-	49.3	-	33.2	-	12.5%	-
腎など	237	115	352	25.4	11.4	14.8	5.4	10.5	3.8	3.2%	2.1%
膀胱	352	101	453	37.8	10.0	19.4	4.3	13.4	3.0	4.8%	1.8%
脳・神経系	66	96	162	7.1	9.5	4.9	6.0	4.0	5.1	0.9%	1.7%
甲状腺	68	197	265	7.3	19.5	5.0	14.2	3.8	11.1	0.9%	3.5%
悪性リンパ腫	64	54	118	6.9	5.3	3.6	2.2	2.5	1.7	0.9%	1.0%
多発性骨髄腫	16	10	26	1.7	1.0	0.8	0.3	0.6	0.2	0.2%	0.2%
白血病	27	18	45	2.9	1.8	1.8	0.9	1.4	0.7	0.4%	0.3%

日本人人口^(*): 1985年日本人モデル人口 世界人口^(*): DoIIの世界人口
 皮膚^(*): 皮膚の黒色腫を含む

図4に罹患数上位10部位の主要部位別罹患割合を男女別にグラフで示した。

図4 主要10部位別罹患数



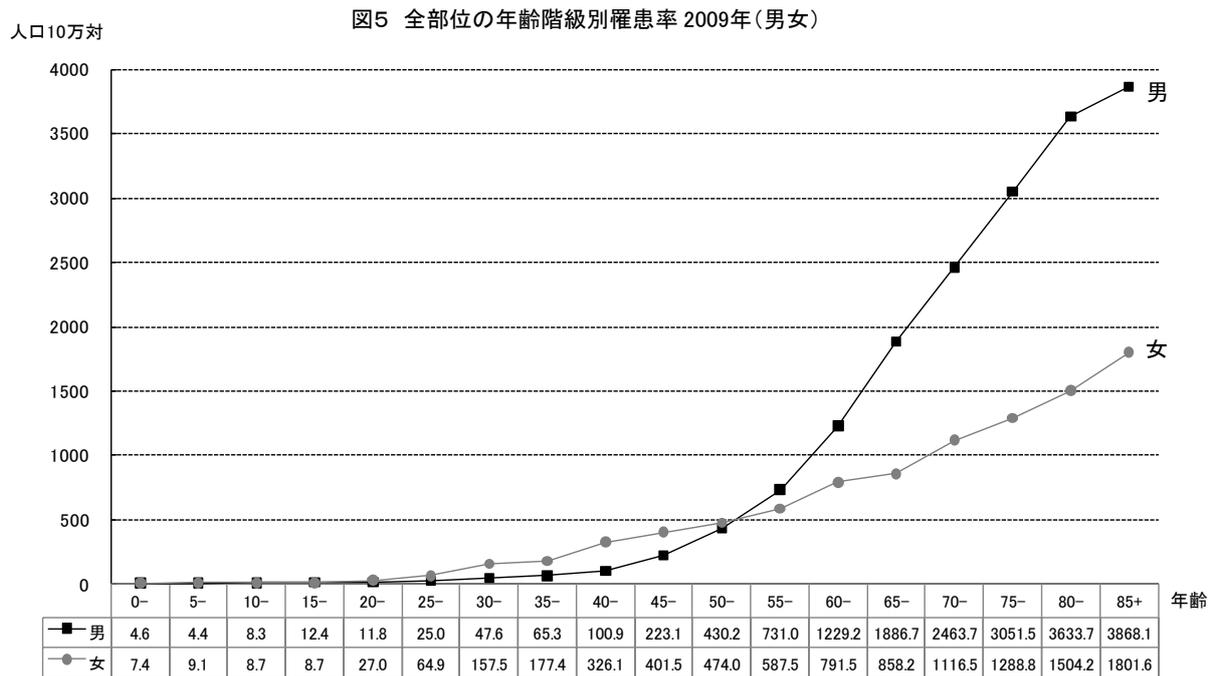
3. 年齢階級別罹患率

(1) 全部位の年齢階級別罹患率

図5に全部位の年齢階級別罹患率を男女別に示した。

男女ともに年齢が高くなるにつれ、がん罹患率が高くなっている。

50歳までは女のがん罹患率が男を上回っているのは女性固有の乳がん、子宮がんの罹患が若い年齢層に多いことと関連があると考えられる。また、60歳を過ぎる辺りから男の罹患率が増加傾向にあり、年齢が高くなると男女の罹患の比率の差が大きくなっている。これは全国値と同様の傾向である(図2)。



(2) 特定部位別の年齢階級別罹患率

図6,7に特定部位の年齢階級別罹患率を男女別に示した。(数値については付表11,12参照)

男はいずれの年代でも胃がんの罹患率が高いが、65~70歳で前立腺がん、80歳以上になると肺がんの罹患率が高くなっている。

女では乳がんの好発年齢である40~60歳代までの罹患率が高くなっている。また、子宮がんの罹患率は子宮頸がんの好発年齢とされる20~30歳代にピークになっている。

図6 年齢階級別罹患率 <特定部位> -男-

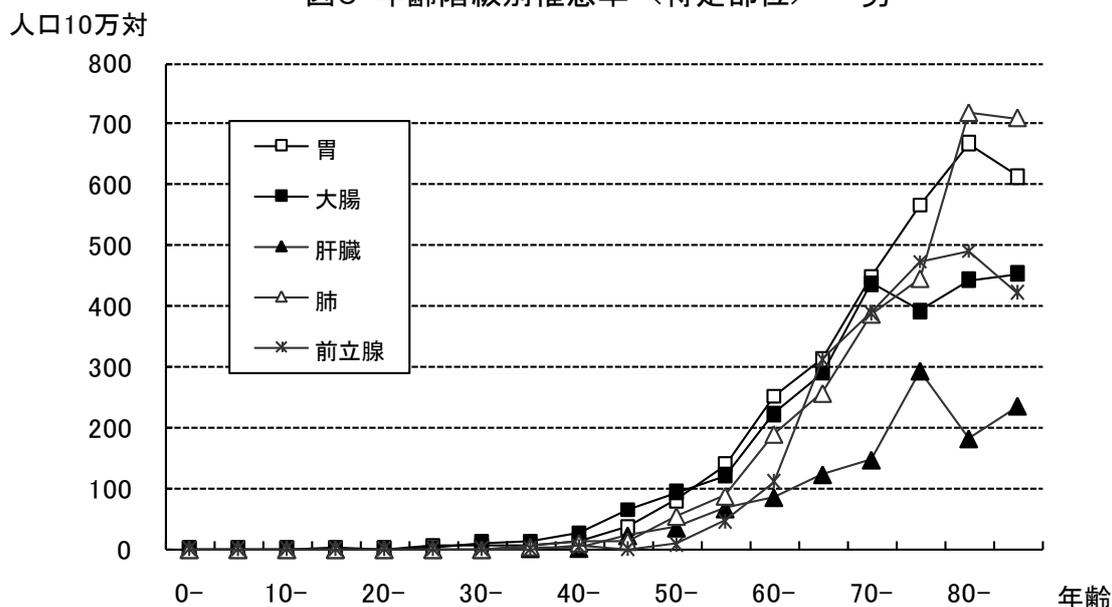
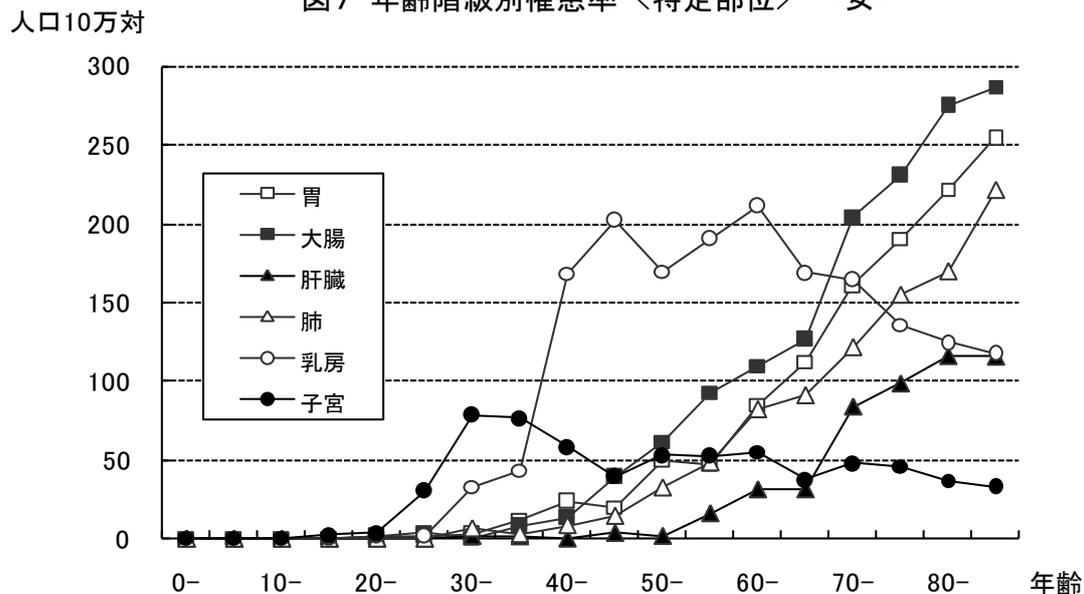


図7 年齢階級別罹患率 <特定部位> -女-



4. 男女別の主要部位別罹患率の年次推移

図 8, 9 に主要部位別、男の罹患率の推移を粗罹患率と年齢調整罹患率（1985 年日本人モデル人口）とで示した。

男の年齢調整罹患率をみると胃がん 76.8、大腸がん 70.6、肺がん 61.9 が他の部位に比べて高く、2006 年以降増加傾向にある。

要因の一つとして、がん診療連携拠点病院からの登録数増加による影響も考えられる。

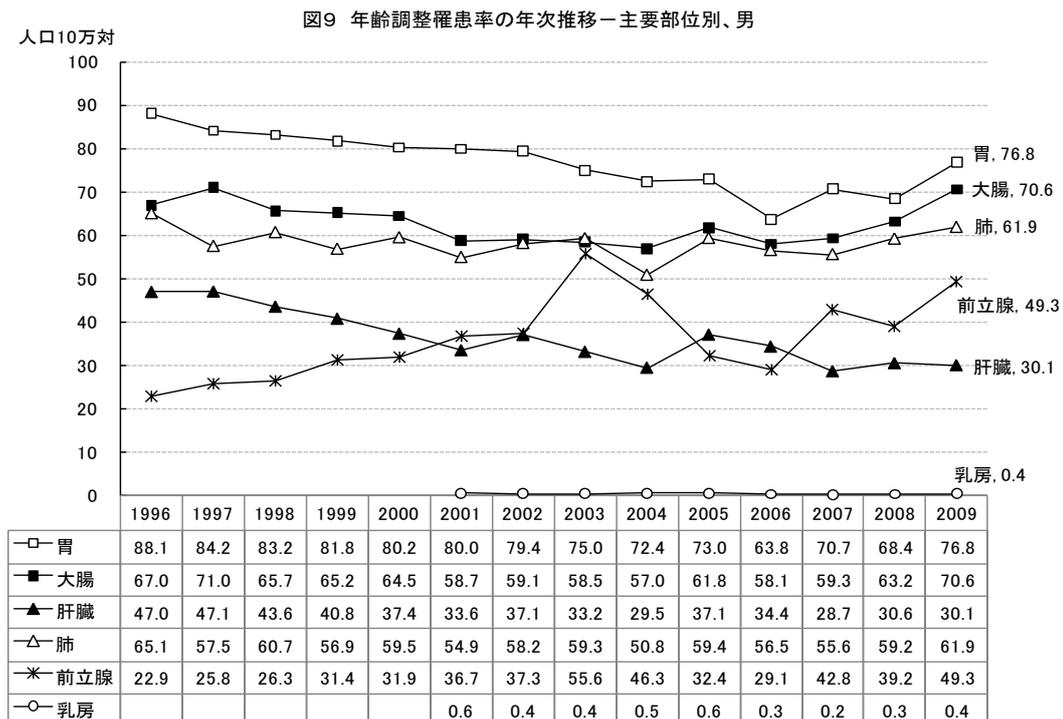
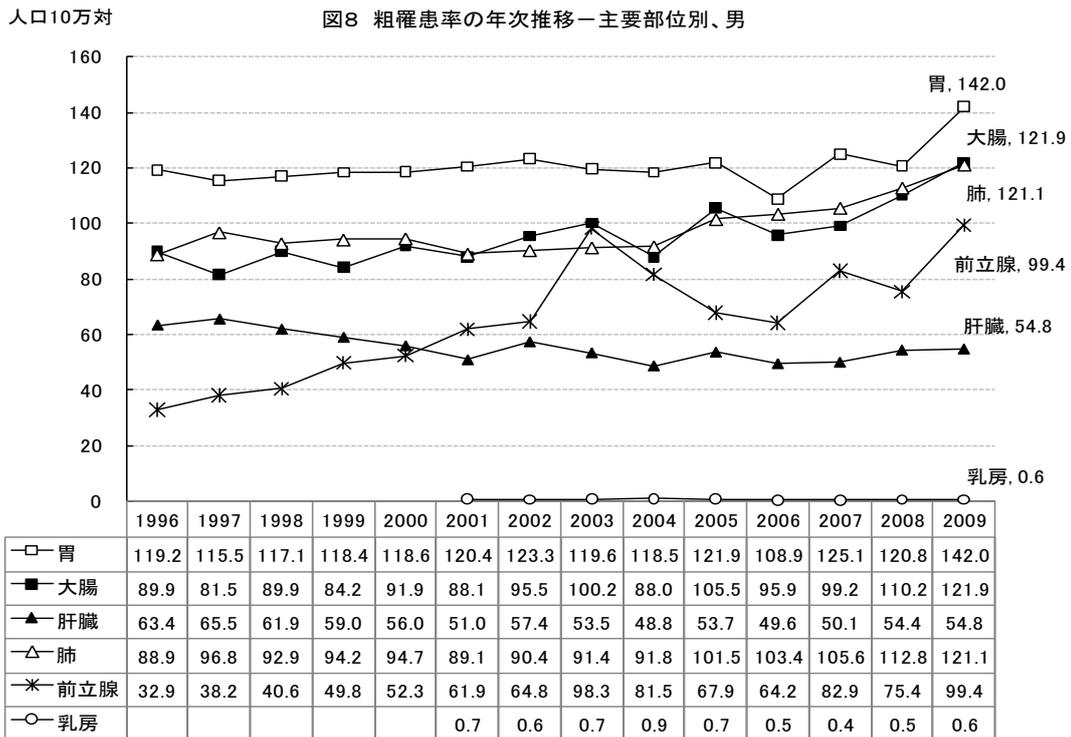
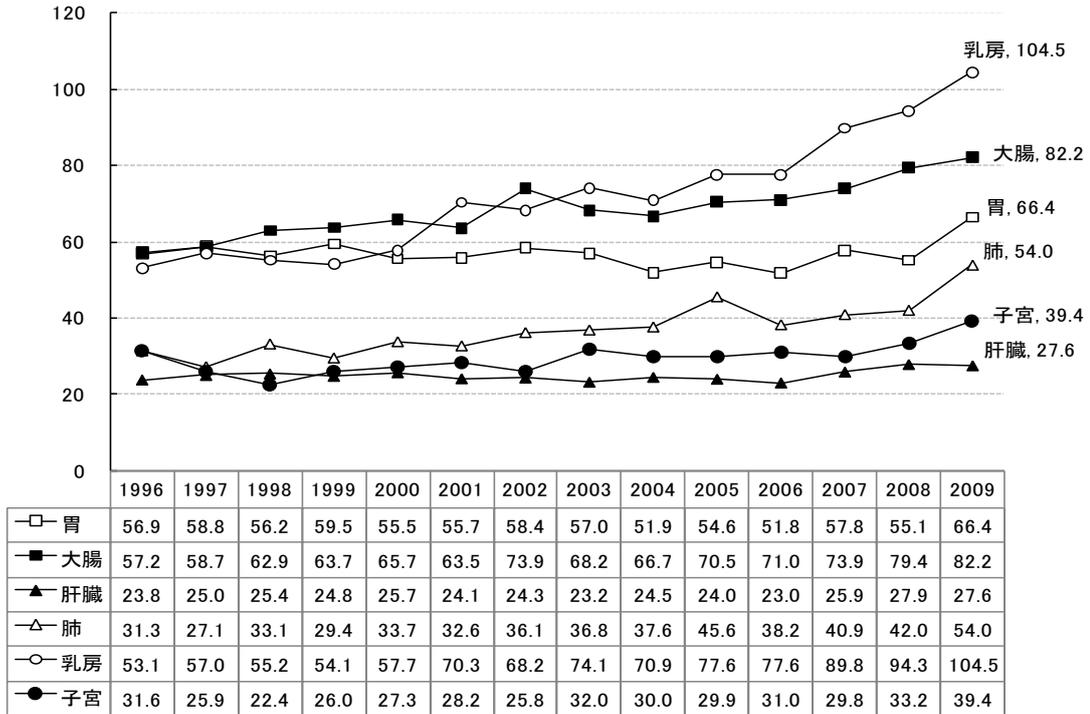


図 10, 11 に主要部位別、女の罹患率の推移を粗罹患率と年齢調整罹患率（基準人口：1985 年日本人モデル人口）とで示した。

女の年齢調整罹患率を見ると年次をおって乳がんの罹患率が高くなっており、2009 年には人口 10 万対 80.8 と他のがんと比較すると圧倒的に高くなっている。

人口10万対

図10 粗罹患率の年次推移—主要部位別、女



人口10万対

図11 年齢調整罹患率の年次推移—主要部位別、女

